

# ドラッグストアの果たす社会的役割②

ードラッグストアの果たす役割と課題ー

平成26年12月

# 構成

---

- ドラッグストアに求められる役割
- セルフメディケーションに向けたドラッグストアの役割
- 商品・商品情報の提供方法

# ドラッグストアに求められる役割

- セルフメディケーションを進める消費者へドラッグストアが「情報提供」でサポートする
  - ・身体と心の健康づくりに適切な情報提供が不可欠
  - ・「情報提供」が生活の新しい満足をつくりだし「情報提供」に商品、サービスが加わり新しいマーケットが創造される
  - ・ドラッグストアならではの情報を提供する

- 高齢化・人口減少社会におけるドラッグストアの役割(イメージ)

- ・新しい社会的機能の創造

(例) —セルフメディケーションのサポート、窓口機能

—買物弱者への対応と安心・安全な暮らしのサポート

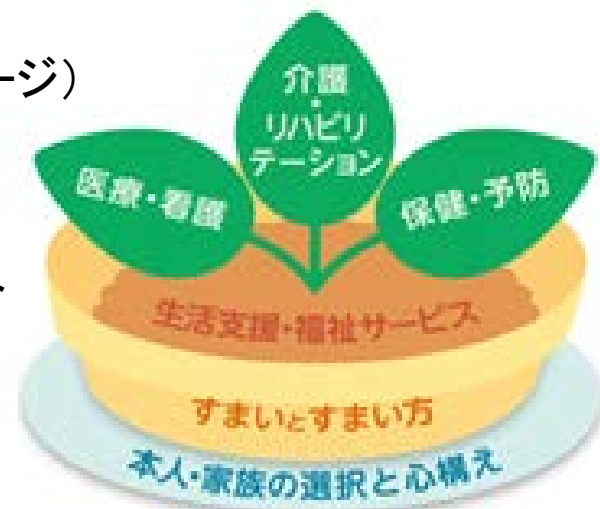
—在宅介護および在宅ケアのサポート

- ・新しいマーケットの創造

(例) —健康食品機能性表示制度への対応

—訪日外国人への対応および買物支援

—在宅介護食の啓発、普及、その他



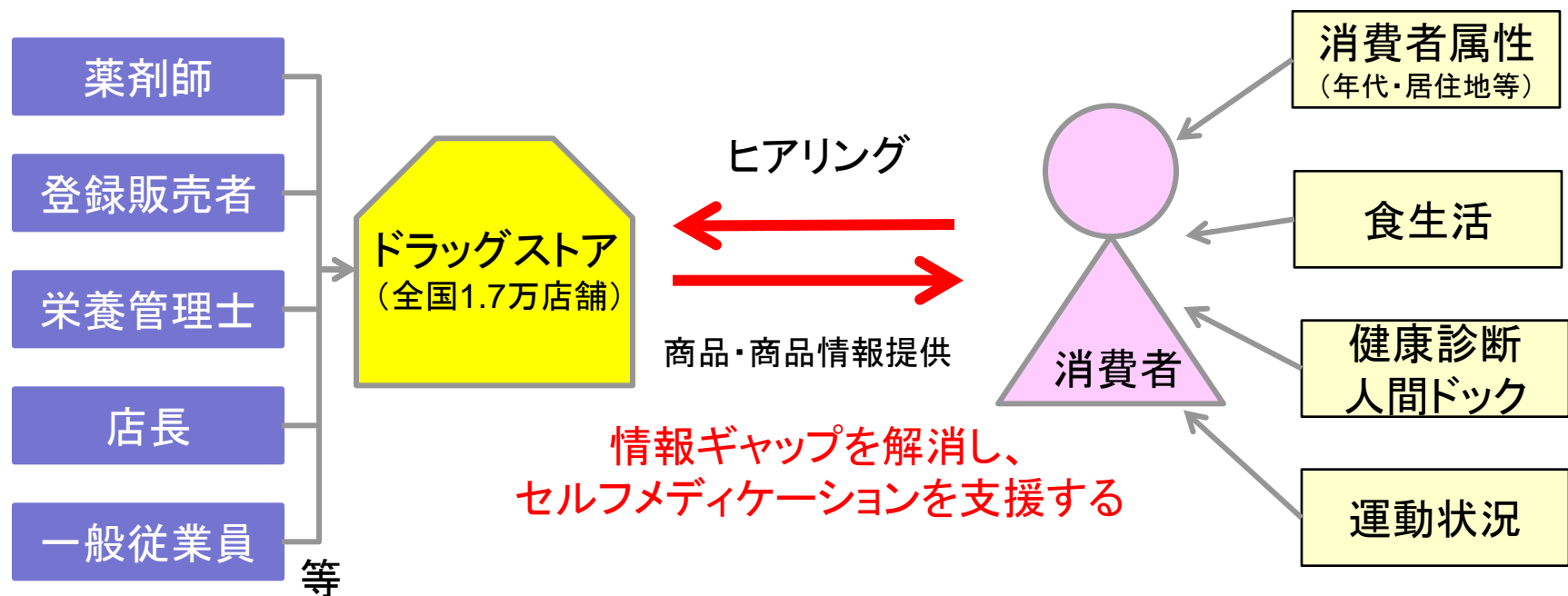
出典:厚生労働省「地域包括ケアシステム」

⇒「情報提供」や「社会的機能」、「新しいマーケットの創造」が求められる。

# セルフメディケーションに向けたドラッグストアの役割

- 個人がセルフメディケーションを推進するためには、ドラッグストア等のサポーターが適切な商品を選択し、商品情報と一体的に提供することが有効ではないか。
- ドラッグストアは生活者に接する店舗と専門家を有する事業者として、セルフメディケーションを支援する役割を担うことができるのではないか。

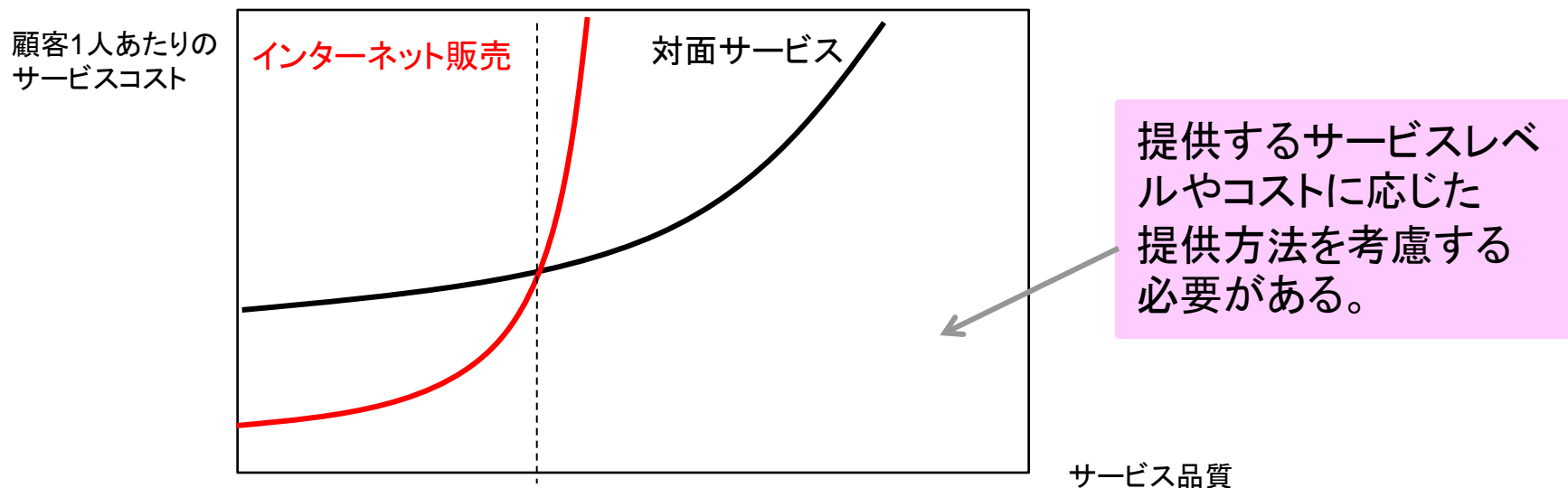
## 《ドラッグストアを活用したセルフメディケーションの推進イメージ》



# 商品・商品情報の提供方法

- パターン化・標準化できるサービスにおいてはデータベースやインターネット販売等を活用することで低コストでのサービス提供が可能になるのではないかと。一方、カウンセリング等を通じた対面サービスはコストに比例してサービス品質も向上する。
- そのため、提供するサービスレベルやコストに応じた情報提供方法を考慮する必要があるのではないかと。

《参考：データベース活用の考え方／サービスの品質とコストの関係》



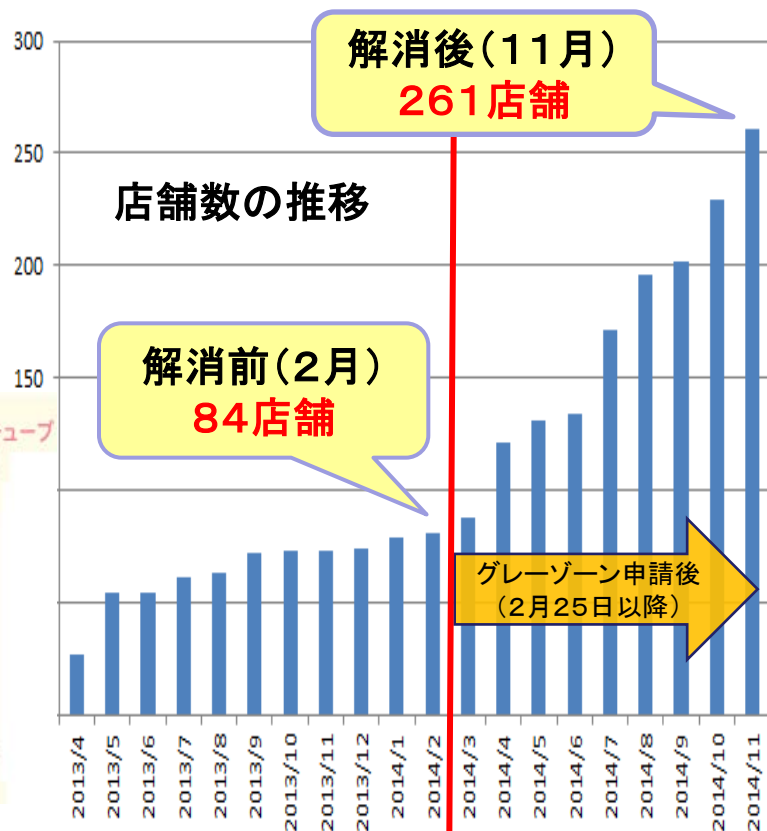
# 参考：具体事例（グレーゾーン解消制度の活用）

- 健康ライフコンパスは、自己採血キットを活用して、自己採血した血液による簡易な検査を行うことで、検査結果を通知する健康管理サービスを創出。
- グレーゾーン解消制度を活用し、簡易検査の実施やその検査結果の通知、健康関連情報の提供が、医師のみに認められている「医行為」に該当しないことを確認。
- グレーゾーンが解消されたことにより、申請前(2月末時点)は84店舗だったものが、11月17日には261店舗まで拡大。

じぶんからだクラブ



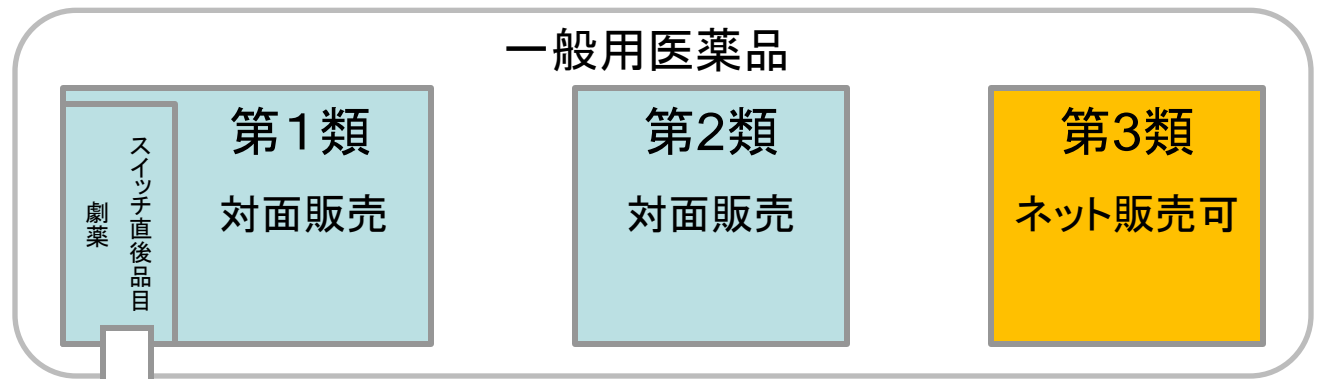
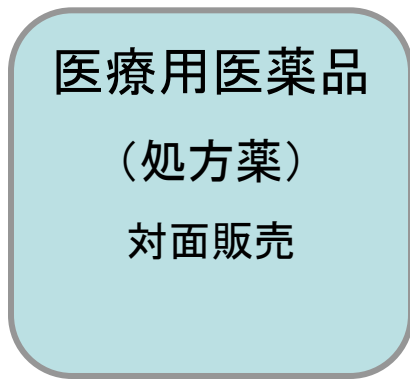
## <採血キット>



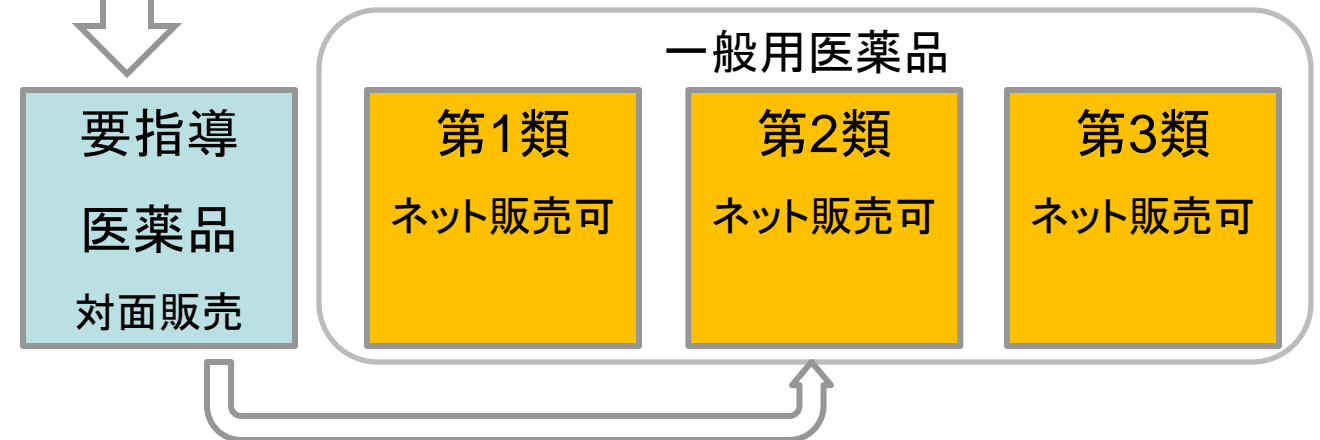
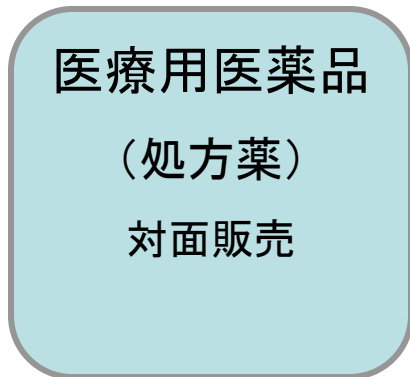
# 参考: 具体事例(インターネット販売の解禁)

- ❑ 薬事法改正により、本年6月から一般用医薬品のインターネット販売が認められた。
- ❑ リアル店舗を持つドラッグストアとして、インターネットとリアルを組み合わせるどのように取り組んでいくべきか。

【改正前】



【改正後】



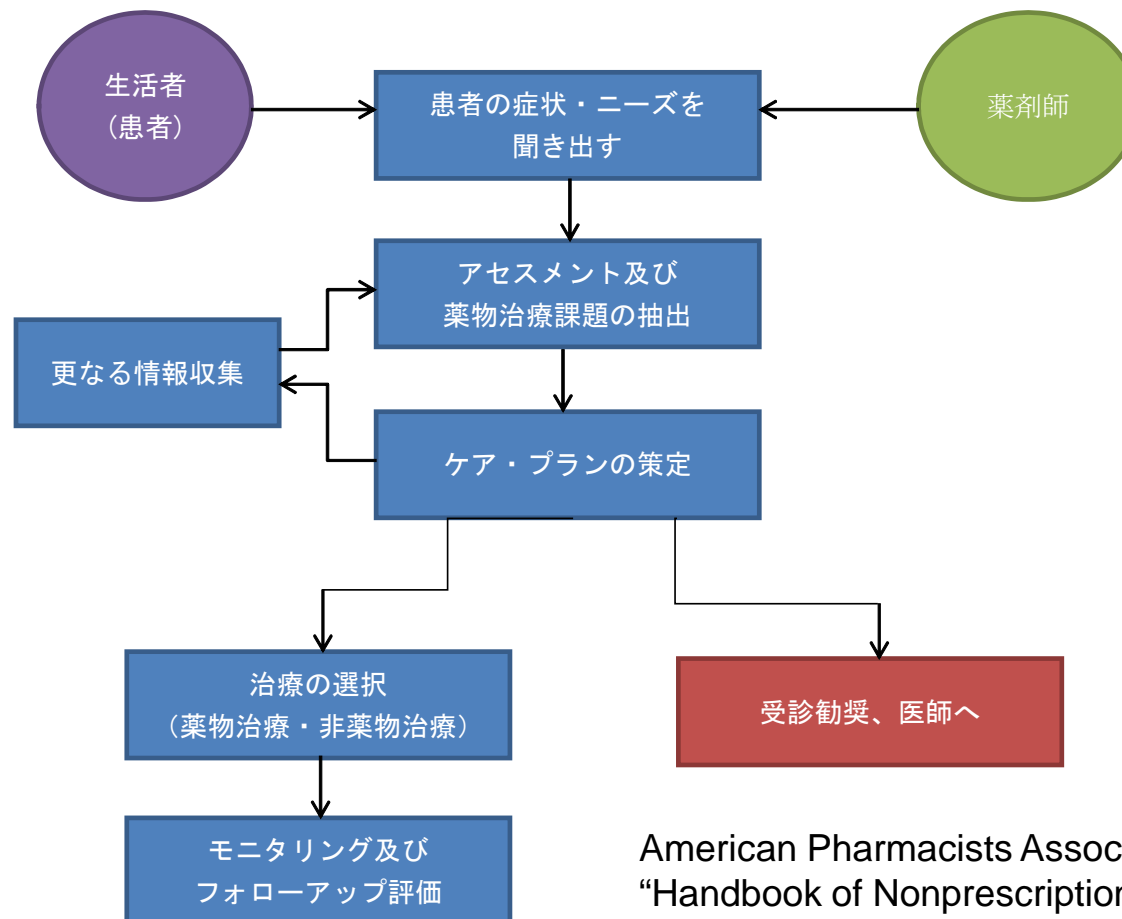
スイッチ直後品目  
(原則3年後)

出典: 厚生労働省HPをもとに事務局作成

# 参考:ドラッグストアにおけるサービス提供フロー(米国の例)

- 米国では薬剤師が顧客にインタビューし、基本的な生活背景情報を得る症状等から状況を評価(アセスメント)することが前提となっている。

## 《ドラッグストアにおけるサービス提供フロー(米国)》



American Pharmacists Association(2009)  
“Handbook of Nonprescription Drugs 16<sup>th</sup>”より作成



# 参考：買物弱者対応の視点

## 買物弱者対応に向けた3つの視点

### ①身近な場所に店を作る

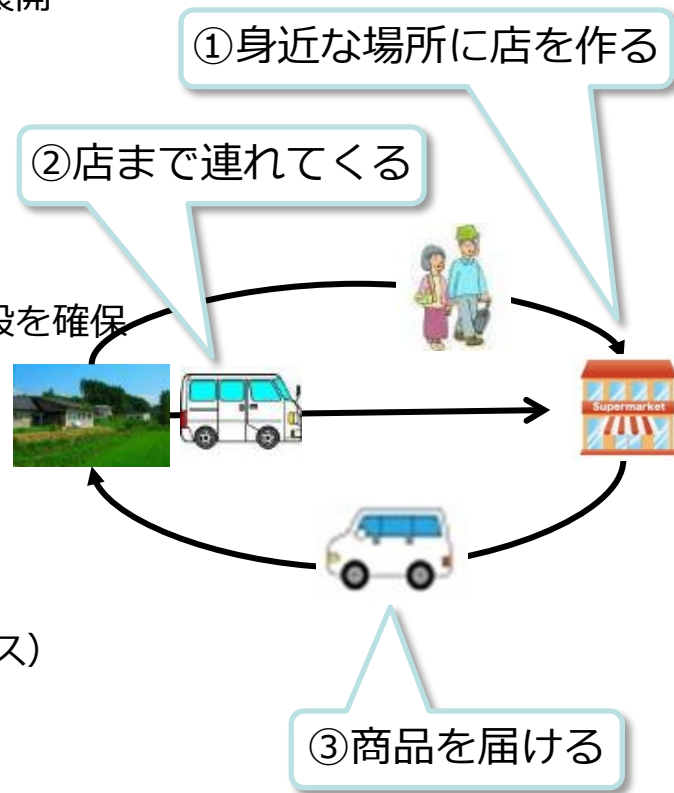
～商業機能を維持できる小規模小売店（マイクロスーパー）を展開  
・既存の小売店では出店できない過疎地域等において、品揃えを厳選するなどの効率化に向けた工夫や、仕入れ・店舗運営のノウハウを有する事業者との連携等を図ることで、持続的に営業可能なマイクロスーパーを展開。

### ②店まで連れてくる

～過疎地域の中間に所在する拠点を活用し、そこまでの交通手段を確保  
・複数の集落の中間に所在する拠点到商業機能を始めとする生活サービス（行政出張所、診療所等）を整備。併せて観光施設等も集約することで、観光客の利用等により交通機関を効率化し、持続可能性を高める。

### ③商品を届ける

～商品宅配とサービスを複合的に提供（ワンビジット・サービス）  
・外出ができない高齢者等に対して、定期的に訪問する事業者を核に、生活に必要な不可欠なサービスを複合的に組み合わせることで、物流コスト削減を図るほか、副次的な収入により採算性を確保し、持続可能性を高める。

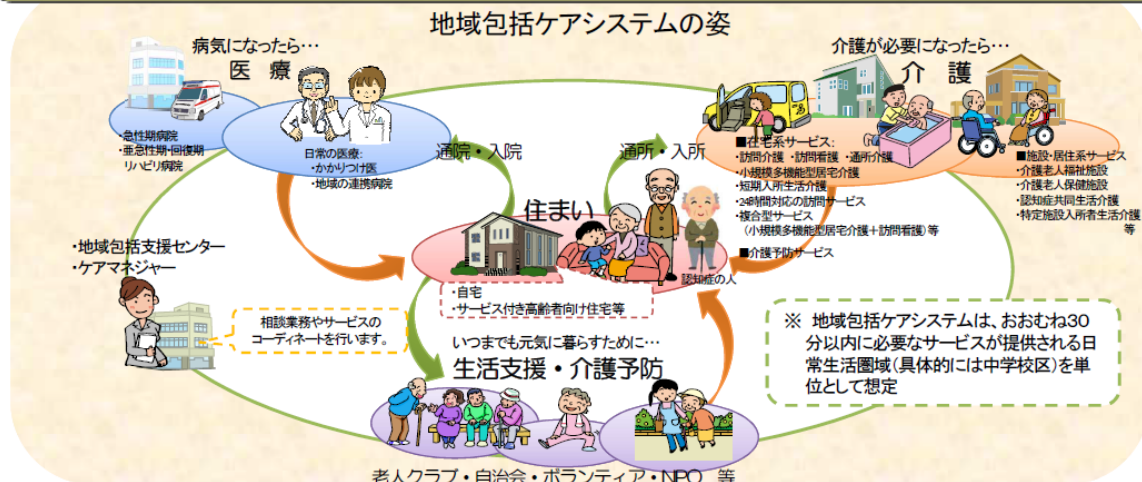


# 参考：地域連携

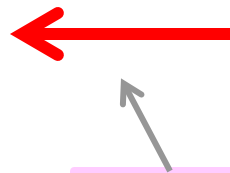
- ❑ 全国各地で「地域包括ケアシステム」に向けた取り組みが進んでいる。
- ❑ 「地域包括ケアシステム」との関係で、ドラッグストアがどのような役割を果たしていくことが可能か。

## 地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。  
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要**です。



ドラッグストア  
(全国1.7万店舗)



将来的な連携・支援の  
範囲を検討する必要  
がある

出典：厚生労働省「地域包括ケアシステム」